

2024年5月10日

2024年3月期 決算短信補足資料



証券コード：4886

あすか製薬ホールディングス株式会社

ハイライト

2024年3月期 連結

売上高

- ✓ **628億円、前同比3.9%増加**
産婦人科領域を中心とした医療用医薬品事業が伸長し、過去最高の売上高を更新

売上原価

- ✓ **321億円、売上原価率 前同比1.5ポイント改善**
先発医薬品である「レルミナ」「チラーヂン」「リフキシマ」の伸長による製品ミックス改善等が寄与

販売費及び 一般管理費

- ✓ **241億円、売上高販管費率 前同比0.4ポイント減少**
研究開発の進展に伴う費用は増加したものの、減価償却費が減少

営業利益

- ✓ **65億円、前同比27.3%増加**
売上、売上総利益の増加により増益

2025年3月期 連結

業績予想

- ✓ **売上高 630億円、前同比0.2%増加**
- ✓ **営業利益 67億円、前同比3.1%増加**

損益計算書（連結）

単位：百万円	2023年3月期	2024年3月期	増減額	増減率
売上高	60,461	62,843	2,381	3.9%
営業利益	5,108	6,500	1,392	27.3%
経常利益	5,232	6,522	1,289	24.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,238	7,545	3,307	78.0%

増収増益要因

- ✓ 医薬品業界における毎年の薬価改定等、引き続き厳しい事業環境にある中で、産婦人科領域を中心とした医療用医薬品事業の増収や、新製品の伸長などにより、前年度に引き続き堅調に推移しました。
- ✓ 投資有価証券の売却に伴う特別利益を計上したことから、当期純利益は前同比78.0%増となりました。

事業別売上高（連結）

単位：百万円	2023年3月期	2024年3月期	構成比	増減額	増減率
医療用医薬品事業	53,579	56,016	89.1%	2,436	4.5%
アニマルヘルス事業	6,660	6,664	10.6%	3	0.0%
その他事業	220	162	0.3%	△58	△26.3%
合計	60,461	62,843	100.0%	2,381	3.9%

増減要因

- ✓ 医療用医薬品事業は、薬価改定の影響を受けつつも全般的に堅調に推移しました。産婦人科製品の「レルミナ」「ドロエチ」が前年に引き続き増加し、内科製品の「チラーヂン」「リフキシマ」も着実に伸長しました。
- ✓ 動物用医薬品、飼料添加物等を展開するアニマルヘルス事業においては、飼料添加物等は減収であったものの、動物用医薬品の増収により売上高は前年と同水準となりました。

主要製品売上高（医療用医薬品事業）

単位：百万円

領域	区分	製品	2023年3月期	2024年3月期		2025年3月期計画		特記事項（24年3月期）
			実績	実績	前同比(%)	見込	前同比(%)	
内科	AG	高血圧治療剤 カンデサルタン類 ※1	10,723	9,593	△10.5%	8,626	△10.1%	薬価はダウンしたが数量ベースを維持
	先発品	甲状腺ホルモン製剤 チラーヂン	7,733	7,862	1.7%	8,018	2.0%	想定通りの進捗
	先発品	難吸収性リファマイシン系抗菌薬 リフキシマ	5,397	5,864	8.7%	6,117	4.3%	ガイドライン浸透により堅調に推移
	先発品	抗甲状腺剤 メルカゾール	1,486	1,521	2.3%	1,510	△0.7%	想定通りの進捗
	GE	高血圧治療剤 アムロジピン	901	840	△6.7%	806	△4.1%	想定通りの進捗
産婦人科	先発品	子宮筋腫・子宮内膜症治療剤 レルミナ	8,839	9,906	12.1%	11,251	13.6%	子宮内膜症での浸透活動を継続
	GE	月経困難症治療剤 ドロエチ	3,671	6,125	66.8%	5,990	△2.2%	市場拡大が進む中で想定以上に新規処方を獲得
	AG	月経困難症治療剤 フリウエル	3,489	3,303	△5.4%	3,101	△6.1%	数量は増加したが当初想定よりは下回る
	先発品	黄体ホルモン製剤 ルテウム	1,251	2,029	62.1%	2,106	3.8%	外部要因等の影響が継続
	先発品	経口避妊剤 アンジュ	784	725	△7.5%	790	9.0%	他社品への流出による減少
	先発品	切迫早産における子宮収縮抑制剤 子癇の発症抑制・治療剤 マグセント ※2	626	706	12.7%	665	△5.8%	薬価上昇分が数値に反映
泌尿器科	GE	LH-RH誘導体マイクロカプセル徐放性剤 リュープロレリン ※3	4,999	4,430	△11.4%	3,962	△10.6%	期初想定より他剤への切り替えが継続

※1 配合剤を含む

※2 硫酸マグネシウム製剤の合算値

※3 1.88mg製剤は産婦人科適応のみだが、3.75mg製剤との合算値

主要事業分野別売上高（アニマルヘルス事業）

単位：百万円

事業分野	2023年3月期	2024年3月期		2025年3月期計画	
	実績	実績	前同比(%)	見込	前同比(%)
飼料添加物 混合飼料 飼料原料	4,152	4,042	△2.7	4,031	△0.2
動物用医薬品	2,370	2,487	4.9	2,534	1.9

増減要因

- ✓ 2024年3月期は、飼料添加物が市場環境の影響を受け減少したものの、動物用医薬品の抗生物質製剤、コンパニオンアニマル用製品が伸長しました。
- ✓ 2025年3月期は、動物用医薬品の伸長を見込んでいます。

2025年3月期業績予想（連結）

単位：百万円	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	増減額	増減率
売上高	62,843	63,000	156	0.2%
営業利益	6,500	6,700	199	3.1%
経常利益	6,522	6,700	177	2.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	7,545	5,000	△2,545	△33.7%

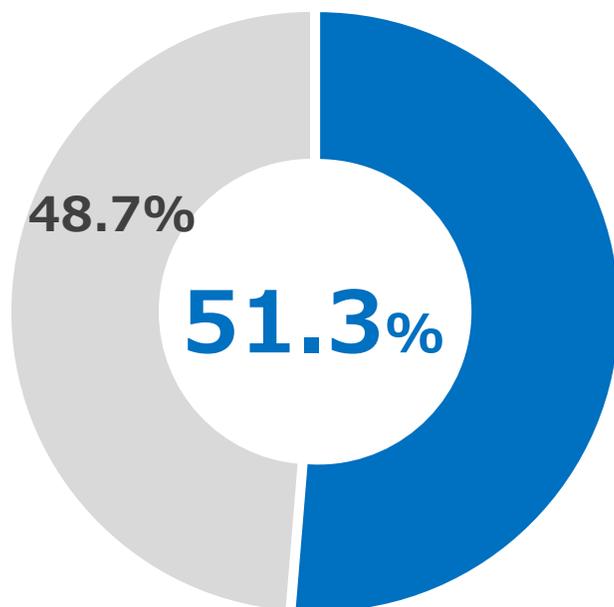
増減要因

- ✓ 売上高は、主力の医療用医薬品事業において毎年薬価改定の影響を受けるものの、レルミナを中心とした産婦人科領域製品等の伸長が寄与し、増収を見込んでいます。
- ✓ 営業利益・経常利益は、研究開発費を中心とした費用増が見込まれるものの、償却費等の減少があることから増益を見込んでいます。当期純利益は、2024年3月期に発生した有価証券売却益の反動があることから前同比33.7%減と想定しています。

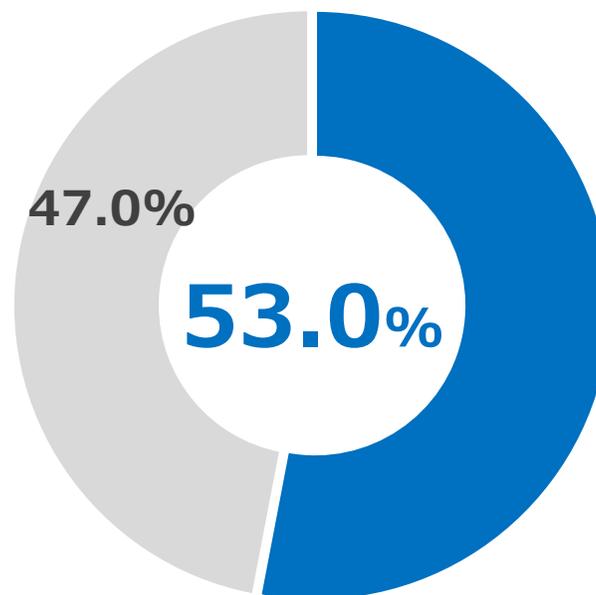
先発品・GE品売上高比率

■ 先発品 ■ GE品

2023年3月期



2024年3月期

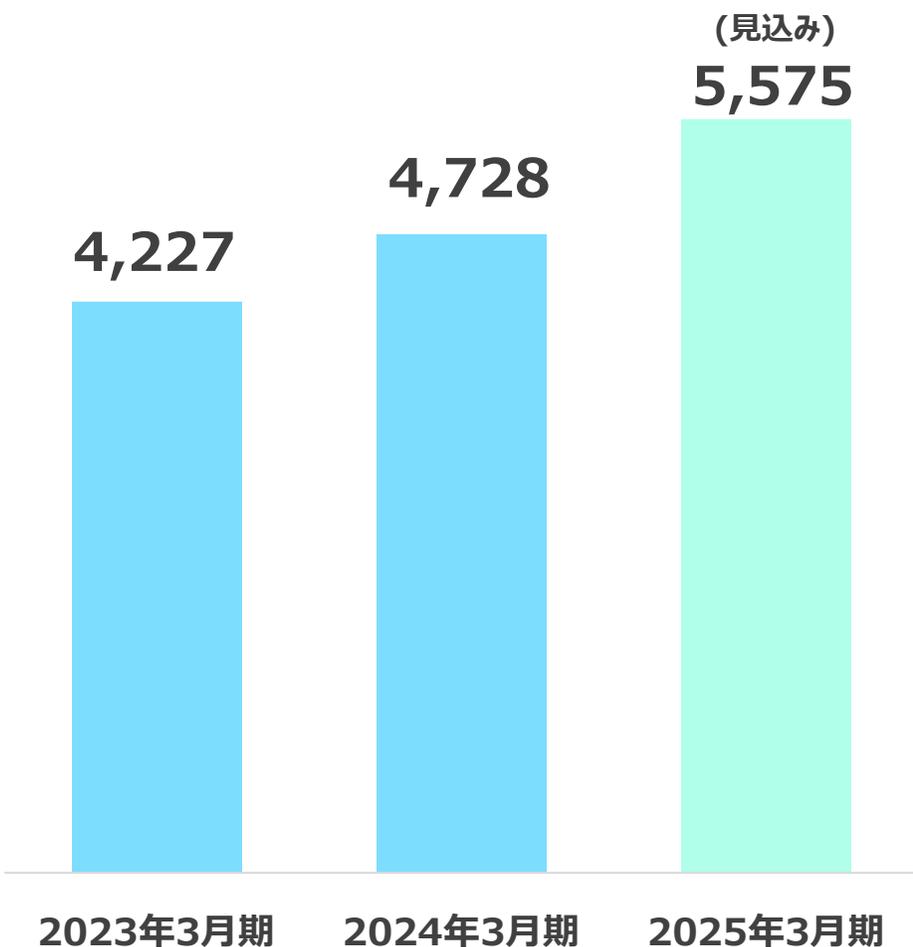


レルミナ、リフキシマ、チラーヂンの伸長により製品ミックスが改善し、先発品比率は1.7ポイント上昇しました。

研究開発の状況

研究開発費推移

(百万円)



2024年5月10日時点

開発番号(一般名)/領域・効能	状況
LF111 (ドロスピレノン) 避妊	申請準備中
(オプション契約) PMS/PMDD治療薬 レナサイエンスにて開発中	Ph II (医師主導)
AKP-022 (レルゴリクス配合剤) 子宮筋腫	Ph I / II 実施中
TRM-270 (癒着防止材) 消化器領域・産婦人科領域	Ph III*1
L-105 (リファキシミン) 肝性脳症 (小児)	承認
AKP-009 (ルダテロン酢酸エステル) 前立腺肥大症	Ph II*2
AKP-017 (テストステロン経鼻剤) 泌尿器科領域	開発準備中

*1 産婦人科領域を対象とした臨床試験を開始しました (2023年11月)

*2 再度Phase I 試験を実施中